

1988	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
5	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	.	.	.	.

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
 そなえる…用意する、そろえる、用心する  
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。  
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛  
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。  
 そなわる…準備ができる、身に付く  
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき  
 防災広報紙

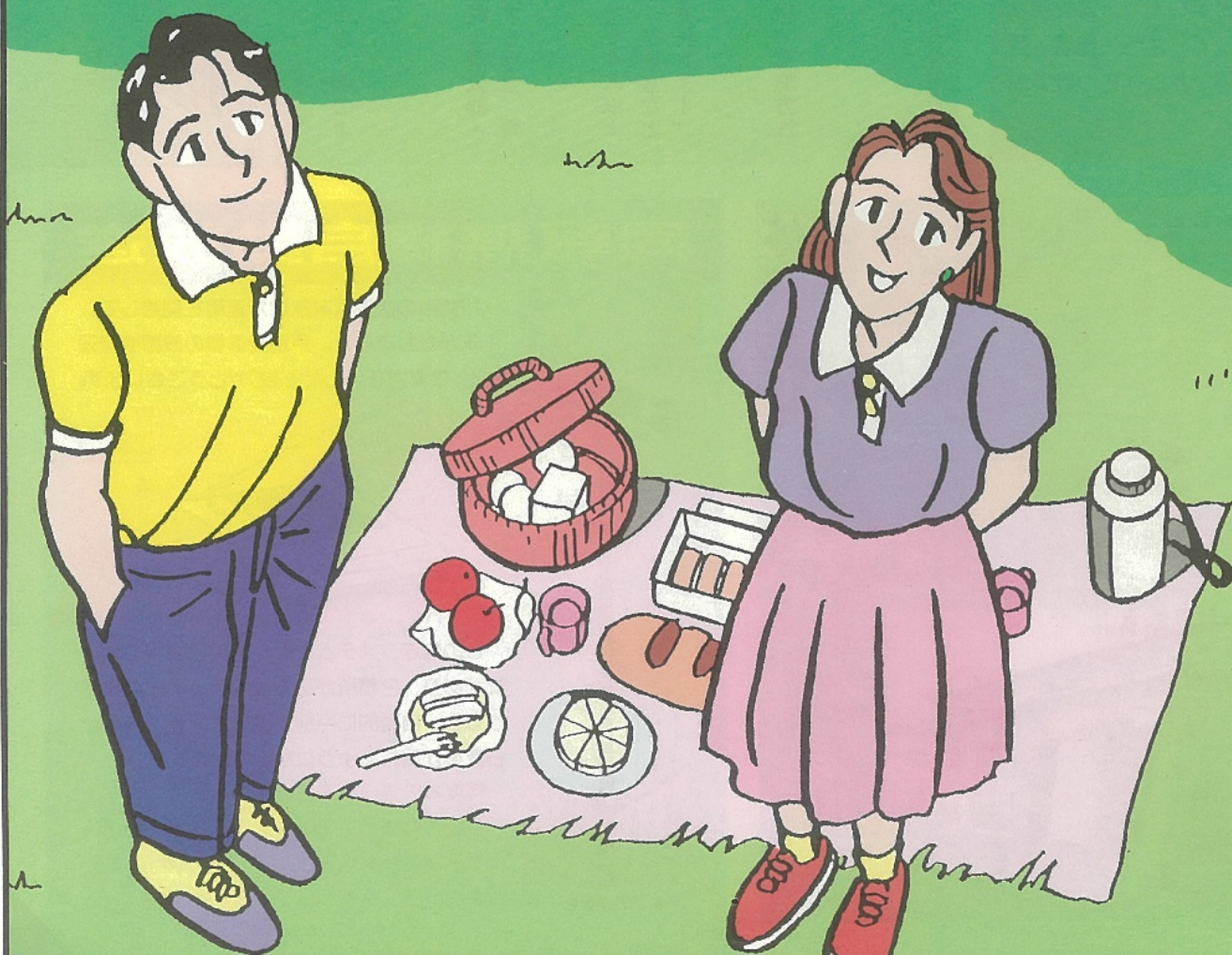
NO.

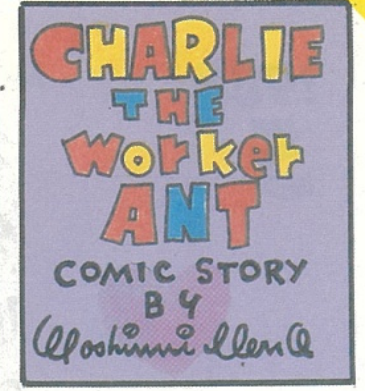
45

昭和63年4月30日発行  
 発行●川崎市  
 編集●土木局防災対策室  
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地  
 TEL.(044)200-2111内線2841

## じぶんにも119番、自主防災組織。

「天は自ら助ける者を助ける」という言葉があります。  
 例えば、突発的な災害に立ち向かう時、  
 電話がかかりにくくなって、  
 頼りにしている消防車や救急車の到着が遅れることがあります。  
 大切なのは、隣り近所の人たちが互いに助け合い、  
 自分たちの町は自分たちで守ろうという気持ち。  
 社会に頼る前に、地域の実情に即した防災知識の普及と事前の訓練をおこたりなく。  
 自主防災組織は、このような災害時の状況を想定して、  
 町内で協力しあうためにつくられた組織です。





# 災害のとき頼れるもの、 遠い親戚より近くの 自主防災組織。

## ◎川崎市の自主防災組織

川崎市の防災対策の流れを簡単にみてみる  
と、次のようになります。

- 昭和49年 ○川崎直下型地震説発表される
- 昭和52年 ○震災時の避難場所を指定する
- 防災資器材購入補助金制度開始
- 昭和55年 ○南部防災センター完成
- 昭和58年 ○川崎市地震対策条例施行
- 毎月15日を市民地震防災デーとする
- 昭和58年 ○活動助成金制度開始
- 昭和59年 ○防災広報紙「備える」発行
- 昭和62年 ○防災行政無線運用開始
- 震災時の避難場所を拡大する

## ◎自主防災組織の活動

自主防災組織が災害時に十分その役割を果たすための活動として、次のようなものがあります。

### ▶ 防災知識の普及

町内の人たちが、災害について理解しておくことが大切です。家庭では、火を出さないこと、家具などを倒さないようにすること、そしてケガ人を出さないこと。さらに自主防災組織として、地域の実情に即した、消火活動、避難誘導などの防災計画を立て、町内の人たちに知らせましょう。特に、ねたきり老人や身体障害者の方の救出については、ふだんから検討しておくことが必要です。

### ▶ 防災訓練

災害時の行動力を身につけるために、自主防災組織の防災計画に基づき、防災訓練を実施しましょう。

訓練の内容としては、情報連絡訓練（町内の被災情報を収集し、防災関係機関の指示などを町内の人に伝達する）、消火訓練（消火器やゆれシーツなどで初期消火をする）、給食給水訓練（炊き出しや給水など食糧や水を確認し、順序よく配分する）、救出救護訓練（はしごやロープを使って負傷者を救出し、応急手当を行う）、などがあります。

## ◎助成制度

自主防災組織の活性化を図るため、次のような助成制度があります。

### ▶ 防災資器材購入補助金

自主防災組織が、防災資器材（消火器・担架など32品目指定）を購入する場合、費用の2分の1を補助します。

### ▶ 活動助成金

自主防災組織が、原則として50人以上参加する防災訓練や防災集会・映画会などを行ったとき、活動助成金を交付します。

## ◎お問い合わせ

自主防災組織の結成や防災訓練の実施方法、また助成制度の詳細については、  
土木局防災対策室  
（電話200-2111内線2841）  
または、各区役所総務課までお問い合わせ下さい。

## ◎自主防災組織の結成状況

年度	組織数	結成率%
53	116	21
54	137	25
55	228	41
56	348	62
57	385	68
58	429	76
59	471	80
60	484	81
61	494	82
62	523	83
63	529	83

（毎年4月1日現在）



本市の防災対策の中で、特に重要なものは、わたしたちの町はわたしたちで守ろうとする自主防災組織の充実強化です。今年の4月現在、全市で529団体（結成率83%）ありますが、ここ数年や頭打ちの状態です。まだ自主防災組織のない町内会・自治会では、是非結成して下さいようお願いいたします。



## わが家の地震対策 ⑧

### 避難するときの持物、だれが何をもちか

避難するとき、身軽な行動ができるように、持物はできるだけ少な目にして、家族のだれが何をもちか決めておきましょう。また持物は背負えるような形にして、住所・氏名・生年月日・血液型などが書かれた札をつけておきましょう。

## 同報無線自動放送

川崎市の防災行政無線が運用を開始して、1年がたちました。戸別受信機の設置や管理など、ご協力をいただきありがとうございます。

この無線システムには、市内3箇所の地震計があり、2箇所がある程度以上の揺れを感じると、自動的に戸別受信機と屋外受信機から音声が行くようになっていきます。

震度4の強～震度5の中の場合の放送文  
「こちらは、防災川崎市役所です。ただいま強い地震がありました。火の元や身の安全に気を付け、落ちついて行動して下さい。」

## 体験談45

### 生涯背負いつづける地震被害

男鹿市協本打ヶ崎 吉田 勝さん

私は、旅へ出て働くことを職業としていた。その職業に、自分なりの自信と誇りを持って三十有年続けた。家族の協力を得た永年の苦勞が実を結び、昭和五十七年秋に、夢であったわが家を新築した。他人では絶対わからぬといつてもよい程の苦勞であっただけに、喜びもまた他人の何倍も大きいものであった。

それから半年、五月二十六日に、この喜びは無残にも打ち砕かれてしまった。日本海中部地震という呪わしい出来ごとで、新築後半年のわが家は、見る影もない姿に変わり果て、私の心も体も鉄槌で叩きのめされたように、当分の間は、考える力も整理する力もなく、この世界に神も仏もないものかと、神仏までうらみに思ったものである。

地震、その恐ろしさは昭和十四年にも体験したが、その時は、私が小学校に入学して一ヵ月目の日であり、ただ恐ろしいものだけであって、今も当時のいろいろな記憶はあるものの、どうしても、子どもの体験としての域を出ないものである。今回の地震は、一家の主としての体験であり、ましてや、新築して半年という家族全員の苦勞の結晶が、地震によって引き裂かれ、傾き、家具類は散乱した。地震の揺れと、死者八人、負傷者四十人、建物全壊四棟、建物半壊二一五棟。

昭和59年5月26日発生 震源：北太平洋沖、深さ10km、マグニチュード7.1  
被害は秋田県に最も多く、青森・北海道に次ぐ。



住宅被害のもっとも大きかったのは昭木地区であった。